

令和7年 諏訪神社奉納煙火（遠州新居の手筒花火）

一晩で1,000本もの花火が奉納 祭礼神事も江戸時代から形を変えず今に残る

7月26日【土】 前夜祭 煙火会場／新居中学校

時間	行事・番組	内 容	会 場
13時00分	^{ミヤマイ} お宮詣り	六町の子どもたちが太鼓台を曳いてお宮詣りに向かう。その太鼓の鳴る様子から“ドンドヤイヲ”とも呼ばれる。	花火六町→ 諏訪神社
16時00分	^{シオハナ} 汐花	^{ハナビロクチョウ} 花火六町内を赤鬼・青鬼が ^{サカキ} 櫛の小枝で潮水をふって清めて廻る。	^{タカミ マチコウミンカン} 高見町公民館→ 花火六町
17時00分	練込み	^{ハナビ ロクチョウ} 花火六町がそれぞれの町から激しく練り込み祭典会場へ向かう。	花火六町→ 諏訪神社
18時00分	^{サイカ ギ} 斎火の儀	^{ゼンヤサイ} 奉納煙火“前夜祭”の火をおこす。	諏訪神社
	奉納煙火	^{ハナビ ロクチョウ トリ シメ ヤクビト} 花火六町の“取締”という役人の代表者が諏訪神社社前で各々1本ずつ花火を奉納する。	
	^{デ バ} お出張り	神様が降臨され花火見物に出張る。	
19時15分	^{オオヤマコウジョウ} 大山口上	^{オオヤマ} “大山”と呼ばれる高い櫓の上から“大山” ^{ヤクビト} という役人の挨拶で祭礼が開始される。	新居中学校 【見どころ】 新居の手筒花火の 象徴でもある猿田 彦煙火が奉納される。
	^{オオツツ} 大筒 (手筒花火)	^{ナカマチ ゲンダ ヤママチ カミダ マチ} 1. 仲町 2. 源太山町 3. 上田町 ^{ナカダ マチ} 4. 中田町の順で出す。	
	^{サンヤク} 三役 (手筒花火)	^{ゲンダ ヤママチ カミダ マチ ナカマチ} 源太山町・上田町・仲町の同時点火。	
	^{ナカマチ オオツツ} 仲町大筒 (据付式)	^{ゼンヤサイ} 今年も“前夜祭”の前日に行っていた“試 ^{ココロ} み”が開催されないため、従来、“試み ^{ココロ} ”で行われていた六本揃い、試み形式乱点けなどが“前夜祭”で予定されている。次から次へと手筒花火を点火する乱点けでは、一度に数十本の火柱が見られる。	
	^{ココロ ランツ} 試み形式乱点け (ふっきり) (手筒花火乱点け)		
	^{ナカダ マチ ソウツツ} 中田町双筒 (据付式)		
	^{カミ ニシマチサルタ ヒコ エンカ} 上西町猿田彦煙火 (手筒花火乱点け)		
	^{ロッポンソロ} 六本揃い (手筒花火)		
21時00分	^{ゼンヤサイ} 手打ち式 (前夜祭)	^{ゼンヤサイ} “前夜祭”の締め。	

※この表の時間は目安です。

7月27日【日】 本祭り 諏訪神社・花火六町内

時間	行事・番組	内 容	会 場
10時00分	諏訪神社例大祭	“宮座”で六町内小学生女子による“浦安の舞”が披露される。	諏訪神社
15時00分	御神体遷しの儀	神様の御魂を神輿に遷す。	諏訪神社 →旧新居宿 →諏訪神社
	神輿渡御	神様が神輿に乗り旧新居宿（花火六町と踊り四町）をまわる儀式。神輿の列は、その太鼓の鳴る様子から“デンドンカッ”とも呼ばれる。	

時間	行事・番組	内 容	会 場
19時00分	ロクチョウマワ 六町廻り	六町それぞれの子ども太鼓台曳き廻しと、 “取締”や“若い衆”による“馬鹿祭り”で 賑やか六町を廻る。	花火六町内
21時00分	手打ち式 （本祭り） ホンマツ	お祭りの締め。花火六町内、中田町カニヤの 四つ角で行われる最後の手打ち式。六町役人 代表者が集まり丸く輪になり行われる儀式。	ナカダ マチ 中田町 カニヤ前四つ角 ヨ カド

ハナビ ロクチョウ キュウアラिशユク カミ ニシマチ タカミ マチ カミ ダ マチ ナカマチ ナカダ マチ ゲンダヤママチ
 花火六町／旧新居宿の上西町、高見町、上田町、仲町、中田町、源太山町の六町をいう。
 アライ シュクナイ ミナトジンジャ オド オド ヨン チョウ イズミマチ フナマチ
 新居宿内には湊神社の秋の踊り祭りをを行う“踊り四町”と呼ばれる泉町、船町
 タマチ サカエマチ
 俵町、栄町もある。

ヤクビト
 役人（祭典委員）／花火祭りを仕切る諏訪神社氏子六町（花火六町）の人たちで構成。
 年長者からセ ワ ケ トリシメ
 世話係・取締に分かれる。